再試験の勉強計画：間違いの記録から日付のある復習へ

記入済みの例

架空の再試験日を2026-11-14とします。2026-11-03から、この学生が使える時間は5回、合計160分、つまり2時間40分です。この例で扱うのは分数と括弧の展開だけで、試験範囲全体がこの時間に収まるとは判断できません。

説明できる訂正を書く

記録した誤り	確かめたい点	訂正した式	新しい確認問題
3/4 + 1/2 = 4/6	分子と分母を別々に足した	3/4 + 2/4 = 5/4	2/3 + 1/4 = 11/12
2(x + 3) = 2x + 3	括弧内の後ろの項を掛けなかった	2(x + 3) = 2x + 6	3(y − 2) = 3y − 6
3 × 5の長方形：周の長さを15とした	問われたものと別の量を求めた	2 × (3 + 5) = 16	4 × 6の長方形：周の長さは20

実際に使える時間だけを配置する

日付	現地時刻	分	確認できる成果
2026-11-03	18:30–19:00	30	診断用の2問に取り組み、間違いの記録を作る
2026-11-05	18:30–19:00	30	分数の方法を訂正し、別の分数問題を解く
2026-11-08	10:00–10:40	40	分数と展開を混ぜ、各段階を説明する
2026-11-10	18:30–19:00	30	解答を見ずに新しい問題に取り組む
2026-11-12	18:30–19:00	30	残る弱点を確認し、持参物と質問を整理する
合計分数		160	

出典と版: Carnegie Mellon University, Eberly Center: Exam Wrappers

再試験の勉強計画：間違いの記録から日付のある復習へ

自分の記録

空欄に自分の記録を書いてください。

名前 / プロジェクト

確認済みの再試験条件

説明できる訂正を書く

記録した誤り	確かめたい点	訂正した式	新しい確認問題

問い

実際の結果 / 残る疑問

再試験の勉強計画：間違いの記録から日付のある復習へ

自分の記録

空欄に自分の記録を書いてください。

実際に使える時間だけを配置する

日付	現地時刻	分	確認できる成果
合計分数			

自分の次の行動

日付

実際の結果 / 残る疑問